

武蔵野市第六期長期計画・第二次調整計画策定委員会（第8回）

■日時 令和7年1月17日（金） 午後6時～午後7時25分

■場所 オンライン（Zoom）

出席委員：岡部委員長、中村副委員長、木下委員、久留委員、古賀委員、鈴木委員、
箕輪委員、吉田委員、伊藤委員、荻野委員

欠席委員：なし

1. 開 会

○委員長 皆さん、こんにちは。それでは、第六期長期計画・第二次調整計画、第8回策定委員会を開催いたします。

まず初めに、事務局より本日の配布資料の確認等をお願いいたします。

○齋藤企画調整課長 それでは、本日は、最後の第二次調整計画策定委員会となります。年末年始のお忙しいところ、資料の確認等、本当にありがとうございました。本日もオンラインでの委員会となりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

まず、資料の確認をさせていただきます。策定委員の皆様はグーグルワークスペースの共有ドライブの中に01策定委員会当日資料の第8回、1月17日フォルダ内に本日の資料一式を保存してございます。傍聴の方は、恐れ入りますが、ホームページからダウンロードをお願いいたします。資料番号00が本日の次第でございますので、お開きください。次第の下に、本日の配布資料を掲載してございます。

資料1は「第六期長期計画・第二次調整計画 答申案（最終案）」となります。前回の「答申案Ver1.0」からご意見、ご指摘いただきました内容等を反映した最終版です。内容については後ほどご説明いたします。

次に、資料2「第六期長期計画・第二次調整計画 計画案 各種意見集約表」です。計画案に対してパブリックコメントや市民意見交換会へ出された意見、また、議員や職員から出された意見を集約し、策定委員会としての考え方をまとめたものです。こちらについても後ほど幾つかご紹介させていただきます。

その他、参考資料として、前回12月26日に開催しました第7回策定委員会の傍聴者アンケートとなります。こちらはご参照いただければと思います。

続いて、委員の出欠状況でございます。E委員が少し遅れるということでご連絡をいただいているところでございますが、そのほかの委員に関しましては、全ておそろいです。

続いて、各種注意事項です。傍聴の方は毎度のお願いとなりますけれども、傍聴要領や傍聴に際する注意事項にもありますとおり、録画・録音は禁止となっておりますので、ご理解のほどよろしくお願ひします。なお、議事録作成などの記録のために事務局側では録画・録音を実施させていただいております。

資料の説明等については以上となります。

本日は、答申案（最終案）についての確認、議論がメインとなりますが、5つのテーマにつきましては、文言の修正等も多くございませんので、そこまで時間を要するものではないと思っております。次第の「議事」、(3)にありますように、策定委員の皆様への第二次調整計画に関する振り返りをお話しいただく時間も含めまして、会議時間は1時間30分程度を見込んでおります。

それでは、委員長、よろしくお願ひいたします。

○委員長 ただいまの事務局の説明について何か質問はありますか。よろしいですね、いっつもおりでございます。

2. 議 事

(1) 第六期長期計画・第二次調整計画 答申案について

(2) 計画案における市民意見等について

○委員長 それでは、これから議事に入らせていただきます。

まず、(1)「第六期長期計画・第二次調整計画 答申案について」、(2)「計画案における市民意見等について」は関連がありますので、一括して審議いたします。資料1、2について一括して事務局から説明があると思ひます。よろしくお願ひします。

○齋藤企画調整課長 資料1「答申案（最終案）」、資料2「各種意見集約表」について説明をいたします。

まず、資料1をご覧ください。画面共有をしながら説明させていただきます。

今回の資料は、前回の「答申案Ver1.0」から策定委員会内でご指摘をいただきました部分や市民等からいただいたご意見などを反映し、最終案としてまとめたものでございます。見え消し版となっており、追加部分を赤字、削除部分を取り消し線がついた青字で表示してございます。本日は主に前回の「答申案Ver1.0」からの変更点を中心に説明をいたしま

す。

それでは、まず「答申案（最終案）」、表紙の次のページ、「目次」でございます。

前回の委員会で、二次調にも全文を掲載すべきだにご指摘いただきました自治基本条例、長期計画条例と条例施行規則をそれぞれ参考資料として掲載することになりましたので、ページが追加されております。また、これによりまして、もともとあった参考資料の番号が繰り下がっている形となります。

また、「目次」の下部に追加させていただいております「二次調をお読みいただくうえでの注意事項」については変更なく掲載してまいります。

続いて、第1章「武蔵野市における長期計画・調整計画について」です。

1 ページ、(1)「これまでのあゆみ」、(2)「武蔵野市第六期長期計画・第二次調整計画の策定について」、2 ページの下の方の(3)「第二次調整計画の位置付けと計画期間について」は変更ございません。

3 ページ、(4)「計画見直しのサイクルについて」は、前回B委員より、長期計画の全体像を見るうえでサイクルの説明として六長があり、調整計画があり、二次調整計画があるという流れ、この立て付けを市民の方にももう少しわかりやすくというご意見をいただきました。これを踏まえまして、最終案では、長期計画とは、また、調整計画とはという説明文を新たに追加させていただきました。ただし、これでもまだ市民の方々にはイメージしづらいと思いますので、答申ではこの説明文の追加にとどめさせていただきますけれども、例えば現行の六長調の冊子の 10 ページに、長期計画のイメージ図をつけているところでございます。二次調整計画も、冊子にするタイミングで、このような形で図表等を使ってイメージしやすいように工夫してまいりたいと考えております。またご意見がございましたら、のちほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

続いて、「答申案（最終案）」に戻りまして、4 ページの第2章「施策の体系（テーマ別の見直し）」の扉表紙下部に前回から追加した「資料の読み方」の部分でございます。一部の文言の修正をしつつ、5つのテーマにおける見直しを行った六長調の施策の部分に関しまして、前回「答申案Ver1.0」では長計の6つの分野と施策の番号のみ表示しておりましたが、よりわかりやすく施策の名称も入れるべきだという内部からの意見がございました。それを踏まえまして、それぞれ赤字で施策名称を追加したものでございます。

続いて、5 ページをお願いします。ここからが二次調の5つのテーマに関するページとなります。中身に入ります前に、5つのテーマ、基本施策の名称の後ろに載せている、そ

れぞれ見直した部分のもととなる現行六長調の冊子のページ番号も、初めて見る方はこれが何の冊子のページ番号かわからないのではという序内から指摘がありましたので、テーマごとに、小さい表示で右側のほうに「文中のページ表記は六長調の冊子のページを示している」旨を追加しているところでございます。

続いて、中身に入ります。

まず、テーマ（１）「就労を含めた高齢者の社会参加の支援」につきましては、最終的に修正はございませんでした。

前回、教育委員より、６ページの３行目「リスクリング」という文言について言及がございましたが、担当の委員や担当部署とも協議しまして、最終的にはこのまま掲載するという結論になりました。こちらについては用語集にも記載をしているところでございます。

続いて、７ページです。テーマ（２）「子育て世代への外出支援」につきましても、最終的に修正はございませんでした。１０行目の「移動の負担が大きい世代」という表現が少し曖昧ではというご意見が幾つかございました。こちらにつきましては、策定委員会の中で、二次調整計画の中で少し曖昧に表現しつつ、今策定が進んでおります第六次子どもプランの中で具体的に表現していくと整理されておりますので、変更なしとなっているところでございます。

続いて、８ページ、テーマ（３）「今後の学校改築のあり方の検討」です。こちらにつきましては、前回から３カ所、変更がございました。

１点目が、８行目の部分でございます。前回の市長との意見交換で言及がありました「未来の教育」というキーワードをどのように盛り込むかが宿題となっておりました。担当のＥ委員、副委員長とも協議させていただき、最終的に「将来を見据えた校舎のあり方」から、「未来における教育を見据えた校舎のあり方」というフレーズに改めているところでございます。

２点目の変更点は、１０行目の「様々な観点」という文言の追加でございます。市民のご意見などから、防災や避難所という観点の指摘、また「様々な観点」というフレーズが前回あったのですが、それが抜けるのはどうなのかなどのご意見をいただきました。この部分は、もともと六長調で記載されていた「様々な観点」を「建築面や財政面」という文言に見直していたのですが、市民からのご意見を踏まえまして、最終的に「建築面や財政面など様々な観点も含めて検討」と改めさせていただきました。

３点目は、７行目の右側に※印をつけているところでございます。前回の「Ver1.0」で、

掲載方法を「調整中」とさせていただいておりました今後の改築事業が予定されているのはどの学校なのかという表記につきましては、18 行目からの部分で表記のとおり、一小から六中までの 12 校ということを追加したところでございます。

「学校改築」の変更点は以上です。

続きまして、9 ページ、(4)「吉祥寺イーストエリアのまちづくり」、(5)「吉祥寺パークエリアのまちづくり」につきましては、30 行目の部分で、「まちづくりに関する個別計画との整合を図るとともに」という一文を削除してございます。長期計画の策定においては個別計画との整合を図ることは前提なので、あえてここで記載は不要ではないかという意見をいただきました。これを踏まえまして、最終的に担当の D 委員や所管との調整のうえ、この一文は削除する形になりました。

以上が 5 つのテーマの変更点です。

続いて、12 ページをお願いいたします。

「第 3 章 財政計画」です。

まず、扉表紙の下部、「Ver1.0」では「調整中」としておりました「資料の読み方」について新たに追加してございます。二次調では財政計画の部分のみを見直したこと、見直しに伴って財政計画の策定方法について二次調整計画の内容に合わせて掲載していること、それ以外は六長調の内容を引き継ぐことなどを記載してございます。

また、前回の策定委員会の中で、財政計画について市民の方にもわかりやすいように、考え方なども書き込むようご指示がございました。担当の副委員長と担当課で何度かやりとりさせていただき、13 ページ、六長調に掲載していて内容は変わらないのですけれども大事な部分であるということで、「今後の財政運営」と「財政運営の見直し基準」をあえて再掲する形で掲載しているところでございます。

また、14 ページの部分ですが、まず 1 行目、今回の財政計画の期間を含めて見出しを記載したうえで、21 行目からの文章をかなり修正させていただきました。もとの文章に関しましては、15 ページの見え消しの部分でございます。4 行分の見え消しでさらりとした内容でございましたが、より丁寧に記載をとということで、23 行目「物価高騰をはじめとした社会情勢の影響により、現行計画の財政計画から 1 年間で大きく変化している」、「1 年間のずれにより、ベースとなる予算の規模や各種制度の変更等により、前提条件が変わっているため、双方の財政計画を単純に比較することは難しい」、また、今後は、歳入も増加が見込まれるが、それ以上に歳出の増加が見込まれており、「現行計画に比べて、

計画期間内の基金残高は減少し、市債残高が増加していく見込み」など、詳しい説明を加えているところがございます。

また、学校改築を初めとした公共施設等の経費について、様々な精査が必要であることを盛り込んだうえで、「財政運営の見直し基準に基づき、いち早く市政運営に及ぼす大きな影響の度合いを察知し、早期に適正な対応をしていく」ことで、健全財政運営に努めると結んでいるところがございます。この部分につきましては、文章に込めた思いなど、ぜひ副委員長より、後ほど補足いただけると幸いです。

次の15ページから18ページまでの内容については、変更はございません。

続いて、20ページ以降の「参考資料」でございます。

先ほど「目次」の部分でも触れましたが、20ページから25ページにかけては自治基本条例、26ページは長期計画条例、27ページが長期計画条例施行規則、それぞれ全文の追加掲載をさせていただきました。

28ページ、「策定の流れ」につきましては、資料番号の繰り下がりです。なお、答申では掲載しませんが、二次調整計画策定の流れの中で、実際に計画の冊子になる際は策定委員会など二次調に関する全ての日程をこの後ろに一覧で掲載する予定でございます。

29ページ、30ページは、用語説明です。今回、財政計画の部分で文章を追加してございますので、「Ver1.0」から項目は若干増えているところがございます。

最後に、31ページは六長調の付表や参考資料の内容と、それらの二次元コードになります。

「答申案（最終案）」の説明は以上となります。

続きまして、「答申案（最終案）」と関連しますので、意見集約表についてもご説明させていただきます。

資料2をお願いいたします。こちらについては計画案を11月中旬に公表後、対面やオンラインで開催した市民との意見交換会、約1カ月の間募集しておりましたパブリックコメント、市議会各派等との意見交換、職員からの意見、全てを集約した一覧表です。計画案に対し、全部で266件のご意見をいただきました。

資料の読み方でございますけれども、まず左から、通し番号、隣に計画案のテーマを掲載しているところです。これらの区分は5つのテーマに加えまして、計画見直しのサイクル、財政計画、今回の二次調のテーマ以外の「その他」という8つの区分で表記しているところがございます。

そして、意見の要約に対しまして、策定委員会としての考え方をまとめているものでございます。

本日はこの中から、主に答申案に反映したものを中心にご紹介をさせていただきたいと思っております。

まず、テーマ(1)「就労を含めた高齢者の社会参加の支援」についてですが、3ページの20番、22番、29番のご意見等で、計画案に書かれていました「連続性ある活動に向けた支援」という表現がわかりづらいのではという意見がございました。これらに対しましては、既に答申案の「Ver1.0」でも反映済みですが、最終案では5ページ、21行目にありますとおり、「高齢者一人ひとりが本人の意向、心身の状態及び生活の状況などに合わせて社会参加を継続できるよう、それぞれの活動間の連続性が確保されるための取組みを進める」と、よりわかりやすい文章に改めているところでございます。このテーマでは、そのほかシルバー人材センターに関する事、リスクリングに関する事、現行の様々な福祉施策に関する事など、全部で47件のご意見をいただいたところでございます。

続いて、テーマ2「子育て世代への外出支援」についてです。最終的には計画案の記載どおりとなっておりますが、6ページ、59番、60番、62番、64番です。先ほども少し触れましたけれども、「移動の負担が大きい世代」という表現はどの年齢を指すのか、人によってイメージする世代は変わるのではないかなどのご意見がございました。これにつきましては、「策定委員会の考え方」にも明記してございますけれども、長期計画としては広い意味で問題提起を行い、具体的な子育て世代の対象年齢については子どもプランで検討する旨を記載しているところでございます。このテーマでは、そのほかタクシー利用や自転車移動への支援、ムーブスをもう少し活用できないかとか、移動の負担が大きいのは子育て世代以外にもあるなど、全部で36件のご意見をいただいたところでございます。

続きまして、「今後の学校改築のあり方の検討」についてです。

こちらは先ほどの答申案の際にも説明しましたが、8ページの84番や85番、89番などには、防災面や避難所という観点をぜひ入れるべきだというご意見をはじめ、「建築面や財政面」という表現を入れたことによる賛否の声、全市的な視点という表現に対するご意見のほか、学校に関わるハード面、ソフト面、様々な切り口でご意見をいただきました。こちらは全テーマの中で一番多い72件のご意見をいただいたところでございます。

続いて、テーマ(4)「イーストエリアのまちづくり」でございます。こちらは15ページの168番、169番で「答申案 Ver1.0」のときに既に反映済みですが、第2分団の内容が

本町コミセンの内容に挟まっているのは改めたほうがいいのかという具体的なご指摘、171、172番のとおり、中高生世代の居場所に関して明記されたことはよかったという声のほか、自転車駐輪場の件、本町コミセンのあり方など、全部で37件のご意見をいただきました。

最後、テーマ(5)「パークエリアのまちづくり」につきましては、いただいたご意見をもとに記述を改めた部分はありませんが、南口駅前広場を含めエリア全体で抱える公共課題を早期に解決してほしい、早く進めてほしいというご意見、その他、公会堂の件とか、高さ制限に関する事など、全部で28件のご意見をいただいたところでございます。

また、「計画見直しのサイクル」につきましては5件、「財政計画」に関する事は9件。二次調のテーマ以外の「その他」の意見につきましては32件といった内訳になってございます。

なお、こちらの意見集約表は、計画決定後に改めて公表させていただきますが、近しい内容の意見は並びかえるなど、本日の資料とは異なる可能性がある旨はご承知おきいただければと思います。

資料1、資料2の説明については以上でございます。

なお、これらに資料につきましては、本日が最終の策定委員会になりますので、仮にご指摘等があった場合、最終的には正副委員長預かりということで対応させていただきますことを申し添えます。

説明は以上です。

○委員長 的確なご説明、ありがとうございます。これについて、修正すべき点とか、ちょっと取りこぼしているというところがありましたら、お願いします。

21日に市長に対して答申するのですが、最終調整は正副委員長の預かりとさせていただくということでもよろしいでしょうか。要は、私と副委員長で最終的な答申の案を、大きくは変更しませんが、マイナーなところは調整していくことになると思うんですが、よろしいでしょうか。そういう方向で進めようと思うのですが、副委員長、何かありますか。

○副委員長 特にございませぬ。相当議論してきているので、中身はもう収れんしていると思います。あったとしたら「てにをは」の微修正かなと思います。

○委員長 冊子にするとき、図を加えるようなことがありました。長期計画、調整計画、第二次調整計画、この立て付けは僕でも理解できるまで何年かかかった。なかなか難しいですね。どうしてこんなことになっているんだろうと思った。しかも、調整計画がある

のに長期計画が重なっていたりして、複雑な制度なんですけど、そこら辺もちよつとずつわかりやすく。ただ、しっかり立てて、また状況に合わせて変更していくというのが計画のあり方ですので、変動が生じたとき、今回は市長が変わったという、市政における非常に大きな変更で第二次が発動したわけです。そういうことがなくても調整計画は起こるといのがこの立て付けになっているようです。

ほかの委員の方々から何かありますか。特になければ、以上で今日のメインの議事(1)、(2)は終わってしまいますが、よろしいですか。

○副委員長 先ほど齋藤課長から、財政計画の文章を変更したことの思いを語れという指名をいただいたので、簡単にご報告します。

何よりも市民の方たちと意見交換したときに、この1年間で何で表現が少し変わっているのかとご質問をいただいたことから、この文章の修正をさせていただきました。

調整計画を考えたときから、たった1年間だったんですけれども、正直、想定を超える物価等の高騰がある。市の財政に関しては、まさにこれから学校の建てかえという公共施設の、武蔵野市始まって以来の更新のピークが来るだけに、この物価高騰の影響がかなりシビアに効いています。ただ、この物価高騰に関しては、今後どうなるかという、正直わからないのです。想定を幾ら置いたとしても、それが正しいかどうかわからない。これはずっと言い続けていることです。

同時に、これはずっと言っていることなんですけれども、財政シミュレーションとか財政計画があるから、そのとおりになるということではない。これは調整計画のときにこの議論をさせていただいています。武蔵野市の財政は、財政計画でしっかりと見るんだけれども、何よりも単年度予算が地方公共団体のシステムにあるので、最終的には予算編成の中でそこをしっかりとコントロールしていくし、しっかりとコントロールできるように早期の財政運営の見直し基準をつくって明記した。これが調整計画のときのキモでした。

したがって、確かに今、見えないこともあって、市民の一部の方たちには不安に思われることもあるとは思いますが、見直し基準をちゃんとつくってきましたし、先ほど言ったとおり、そこは単年度予算の中でしっかりとコントロール、管理ができるようにしていますので、大きな懸念をいただく必要はないと思います。ただ、何度も言うとおりに、これから大規模な公共投資のピークに入りますので、気を緩めずにやっていきたいと思いますというようなトーンが少しでも理解いただけるように、財政の方たちと一緒に悩みながら文書をつくったのが現行案です。

○委員長 いろいろ学校のことも苦勞されたようですが、結果において、頭出しはよかったと僕は思いますね。頭出したから多くの意見が出たところもありますので。

では、議事（１）、（２）を終わらせていただきます。あとは事務局と正副委員長預かりで最終的な文章を完成させて、来週 21 日（火）に市長に答申させていただきます。よろしくお願いします。どうもありがとうございました。

（３）第二次調整計画に関する振り返り

○委員長 それでは、（３）「第二次調整計画に関する振り返り」について。各策定委員から順番に述べさせていただきます。また委員となってしまいますが、財政と、もっと広いご苦勞、今後どうすべきかも含めて熱く語っていただけたらと。

○副委員長 お疲れさまでした。調整計画の第２バージョンと言いながら、事務局の方、またそれに合わせて修文とかをされた委員の皆さん、こんな短い時間に本当に大変だったと思います。ありがとうございました。

これが武蔵野市らしいんですけども、武蔵野市の自治の基本的な考え方は、市民と一緒にやってつくってきた計画に基づいて、行政と市民が対等な立場でいろんなものを考えていこうということになっていると思います。それを一番具現化させているのが長期計画であり、その長期計画の調整計画等々であると思います。なので、大変なんですけれども、5年か4年に1回はこの荒波をみんなですっかり乗り越えていかないといけないと私は思っています。なぜなら、行政のサービスに求める市民のニーズは絶えず変化していますし、それを具現化させていく行政の手法も絶えず変化をしなければならない。ただ、ここには市場メカニズムがあるわけではないので、10年前、20年前のやり方を踏襲したとしても、ボタンの大きなかけ違が見えづらくなっている。これが行政サービスの特徴かと思うのです。

その結果、正直言って、市民が抱えている諸事、問題が解決できないところになってくる。気づいたら財政も全くコントロールできないところに追い込まれていってしまうというのは、武蔵野市ではないところにおいては多々起きていることでもあります。したがって、今回計画をつくりましたけれども、計画をつくったからおしまいではなく、今後重要なのは、この計画を実行をかけてくることですが、この計画を金科玉条のごとく守る、このとおりやるのではなく、ある意味では1つの指針で、場合によってはいろんな調整とか変化があっただけで済むべきだと私は思います。重要なのは、思考停止だとかモノカルチャーのご

とく、これさえ守ればいいのかそういう発想ではなく、絶えず考え、絶えず行政の皆さんと市民は対話をしながら、今ある課題は何で、それに対してはどういう解決があるのかを必死に悩み続けていく日々の苦行の積み重ねしかないと思います。また、そういうことをやっていくことが、この調整計画も含む二次調整計画に書かれているはずであります。

これからは、市民も市役所の方々も、この計画の実行ということだけではなくて、毎日毎日考えながら、変化していく。いいことは全部書き込んであると思いますから、変化を恐れずに考え抜く。解決策を何が何でもつくる。手続きが正しいではなく、問題なのは市民に対する重要な公共サービスをいかに効率よく、適正に出していくのかということであって、手続論ではないということも強調させていただけたらと思います。

大変いい計画をつくっていただいたと思いますので、今後は私も一市民として市役所の方、また、ほかの市民の方々と一緒に、このまち、この市政を適正かつ盛り上げていけるように頑張らせていただきます。

ありがとうございました。

○委員長 すばらしいですね。ありがとうございます。

それでは、A委員、お願いします。

○A委員 皆さん、お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。

これは二次調整計画についてということでもよろしかったでしょうか。

○委員長 何でも語っていただいて結構です。

○A委員 私は、そもそも武蔵野市民ではあったのですけれども、武蔵野市の第六期の調整計画で初めて携わらせていただきました。それまでは、最上位の計画ではないのですけれども様々な自治体の計画に携わらせていただいていたのですが、一言感想を申し上げるとすると、とにかく驚きの連続でした。何が驚きかというと、武蔵野市方式ですね。事務局と委員が一緒になって案をつくっていきながら、市民、議員の皆さんと本当に対等にその内容を精査しながらたたき上げていく。

歯にきぬ着せず言うと、今まで携わってきた他の自治体の様々な計画は、事務局案があって、その内容に沿ってシャンシャンと終わる。僕はそれが嫌いで、できるだけそれを阻止することが多かった中で、これだけ武蔵野市に関わっている方全体で、本気でつくり上げていく、時には意見を闘わせながらやっていくという経験をさせていただいて、計画というのはこうあるべきだな、こうつくっていくべきだと思った次第です。本気で武蔵野市の計画をつくっている武蔵野市の市民でよかったと改めて思った次第です。

第二次調整計画については、私が担当させていただいた平和・文化・市民生活のところはあまり修正がなかったもので、あまり意見をやる場がなくて、ちょっと物寂しさも感じていました。もちろん、一生懸命考えて参加してきたところではあります。

ともあれ事務局、委員の皆様、委員、市民の皆様が本気でつくった計画です。先ほど副委員長がおっしゃっていたように、計画をつくるのが目的化するのではなくて、よりいい市、いい自治体をつくっていくことが目的ですので、これの内容をいかに実現していくか、実行していくかが本番かと思います。また一丸となってこの内容を進めて、よりいい市になっていけば、何十回と携わらせていただいたかがあると思います。

以上です。本当にありがとうございました。

○委員長 それでは、B委員、お願いします。

○B委員 お疲れさまでございました。私は何度も申し上げておりますが、委員長、副委員長と同じで、第六期長期計画から関わらせていただきまして、長きにわたって健康・福祉分野の担当をさせていただきました。

これに携わる中で非常に難しいのは、副委員長がおっしゃったように、武蔵野市方式であるがゆえの難しさでございます。

健康・福祉分野は、市民の皆様の個々人の価値観や置かれている状況が異なる中で、具体的な施策を打つような分野です。そうなったときに、調整計画から第二次調整計画にわたって議論する中で、キーワードが幾つか出てきました。共生社会とか、多様性のある社会とか、インクルーシブな社会とか、このようなことが叫ばれば叫ばれるほど、個々人のレベルにパーソナライズされるほど、市としての具体的な施策は難しくなるわけです。市の行政的なところで言うと、最大公約数的な施策になりがちなのですが、これを個別に対応していくとなると、相当難しくなる。

今回第二次調整計画で私が担当させていただいたテーマは「就労を含めた高齢者の社会参加の支援」でした。途中、策定委員会での議論や市の担当の皆様との議論、市民の皆様との意見交換、市議会議員との意見交換等をさせていただく中で、就労ということについて市がどこまで関われるのか、一旦整理をさせていただいたところです。

我が国の法制度の中で、特に労働行政については、国が主に行ってきた経緯があることから、市にできることが限られている。また、就労と社会参加という個々人の価値観や置かれている状況、関心に強く影響される問題に取り組まなければいけないということにつ

いてはそれなりの難しさがあって、一旦考え方というか法制度上の整理をさせていただいたうえで議論に臨ませていただいた。

これは長期計画のときから言っている話なんです、これらの取組みをする中で、計画の中で使われる「地域」とか「市民」とか「施策」という言葉は、行政的にはよく使いますが、市民から見ると、「地域」というのはやはり自分の地域だし、「市民」と言ったときにはそれぞれの世代の市民がいらっしゃる。「施策」も様々な施策があるので、一くくりに言った表現が、それぞれ受けとめられる市民の皆様によって異なるということもある中で、今回のテーマについて考えるのは相当難しかったと思うと同時に、長きにわたって福祉の分野にいる私にとっても改めて勉強させていただきました。ありがとうございました。

○委員長 それでは、C委員、お願いします。

○C委員 半年間、大変お世話になりました、いろんなことを勉強させていただきました。ありがとうございました。どれだけ力になれたかわからないのですが、調整計画の最初よりは、委員長から発言の機会もいただいて、いろんな意見もできたかなと思っております。

二次調整計画が始まった当初、そもそも長期計画というものは、行政に変化があっても市政の方針が大きくブレないためにつくるものと聞いて始まったはずが、行政に変化があると変わるもんだなと思ひまして、違和感があったものの、皆さんで議論しながら、いい計画ができてよかったなと思っております。

難しかったのは、長期計画・調整計画は理念を語る最上位計画であって、あとは個別計画で考えましょうというその割り振りです。例えば、今回で言うと、駐輪場の件です。駐輪場は一回削除したと思うのです。その経緯として、長期計画で書くことではなくて個別計画でやるというので削除されたと思うのですけれども、その切り分けがなかなか難しかった。

最後に、今、B委員がおっしゃった地域で言うと、私は本宿地区で、来年もPTAをやりますけれども、どこの地区も担い手がいない。調整計画の冊子を見てみたら、「担い手」という言葉が29回入っていた。市政としてもやっていくのであれば、具体的施策としてもっと現場の担い手の確保に努めていただければと思っております。

半年間、ありがとうございました。

○委員長 せっかくつくった調整計画を何で見直すんだと思ひましたよね。僕も思ひました。そうしたら、長期計画条例の第3条に「市長は、市長選挙が行われたとき又は市政をめぐる情勢に大きな変化があったときは、実行計画の見直しを行い、新たな実行計画を策

定するものとする」と書いてあるものですから、しようがなかったですね。「必要に応じて」ぐらい、文言で入れておいたらよかったかもしれませんね。僕たちは条例の立て付けどおりやっておりますので。

それでは、D委員、お願いします。

○D委員 私は調整計画から関わって、都市基盤を担当しました。私は50年ぐらい前、今のURの前身の住宅公団で15年ぐらい仕事をしていたのですが、そこでは10万人規模のまちをゼロからつくる仕事をやっていたわけです。ゼロと言うと語弊があるのですが、道路とか下水、学校、とにかく様々な都市基盤をゼロからつくっていた。

それに比べて武蔵野市の都市基盤というのは非常に持続性、継続性がある。ですから、都市行政とか都市計画とかでコントロールできる部分と、そうでない部分、例えば直接武蔵野市がタッチできる都市基盤は、武蔵野市の持っている道路とか下水、水道、いろんな公共施設、学校とか市庁舎。でも、都市というのはそれだけじゃなくて、皆さんの住宅も含めて様々な都市基盤が自律的に動いているわけです。そういうものをコントロールしていくというスタンスが重要になるわけですが、ほかの分野と比べて直接操作というよりは間接操作になるのです。その辺がもどかしくもあり、そういう意味で皆さん、スピード感という欲求が出てくるのですが、基本的にはいろんな都市の課題を武蔵野市はそれなりに抱えていると思います。一方で、じゃ、悪いまちかという、そんなことはなくて、十分ほかに誇れるまちづくりになっていると思うんですね。次、次と打てる手が順序を踏まえないとできないことなので、1つのところがとまると、その次がとまってしまう。そういう形でもどかしさを感じられると思うのです。

そういう意味で、今回のテーマの(4)「イーストエリア」とか(5)「パークエリア」の課題については、そこだけが大事なエリアではなくて、ほかのところも同じように大事なんですけども、課題が積まれている。そういうことから、取り上げられたのだと思います。

もう一つ、次の七長に向けて考えたらいいと私が思うのは、エリア分けで都市基盤を考えることにそろそろ限界というか、違う見方、まちをもうちょっと全体で見えていく。パーツごとに、エリアごとに見るとしても、同じイーストエリアでも全然違う用途地域が混在しているので、同じようなキャッチフレーズをそこに一律に課するわけにはいかないのです。それぞれ地域に合った対応の仕方を小まめに見ることと、武蔵野市全体、都市がどう持続的に発展していくべきかという大きな枠組みの両方を一緒に考えていかなきゃいけな

い。その中で、個別計画には一番大事な都市計画マスタープランがあるのですけれども、長期計画での都市基盤の考えと、都市計画マスタープランの見直しとを、これからもかなり強く連携してやっていかないといけない。そういうことが今後の課題だと思います。以上です。

○委員長 次に行きましょう。E委員、お願いします。

○E委員 遅くなってすみませんでした。

皆さん、二次調もありがとうございました。委員長、副委員長をはじめ委員の皆さんと事務局の方が本当に丁寧にいろいろご議論いただいたおかげで、2回目の委員を何とか終わらせられそうで、ちょっとほっとしている反面、先ほどからもお話に出ているのですけれども、二次調は難しかった。初めて入れていただいた調整計画も難しかったのですけれども、それとはまた違う難しさが今回の二次調にあったと思っています。

私は「外出支援」と「学校改築」を主に担当させていただいたのですけれども、例えば「外出支援」では、前の調整計画で本当に読めないんだろかとどうしても思ってしまう部分がありました。市長の強い思い、特に産前産後のあたりの1年間というようなニュアンスを、今回あえて1年とは区切って書いていないのです。期間をどうするかとかターゲットをどうするかは改めて子どもプランのほうで、もう少し議論し、子ども家庭支援の皆さんと調整する形にきつくなっていくんだと思うんですが、だとすると、前の調整計画で読めなかったのか。そのあたりの市長の思いと、調整計画で読める読めないというところをどう考えたらいいいんだろかということは、正直なところ、最後まで難しいと感じていました。

「学校改築」のほうも、議員さんからも「別に前の書き方でよかったんじゃない？」と言われていた部分があった。私たちも、二中・六中を統合しますとも何も言っていないで、それを議論にのせましょうという書き方で、ただ名前を載せておいたほうがいと前回最終的に判断して載せたけれども、結局それが削除になり、全市的にというところが強調されたことによって、その意味をどう考えたらいいいのかというところは、自分も委員であり市民なんですけど、市民としても難しいと思いました。そのあたりで結構葛藤というか、これは前の調整計画でどうして読めなかったんだろか。それを書き込むことによって、どこがどう変わっていくんだろかというところは、特に副委員長にいろいろ言っていたいて、「財政面や建築面」という文言をはっきり入れたことによって、またさらに何を検討しなければいけないかがくっきりしたのは最終的にはよかったかなと思っています。

さらに今後を考えたときに、これが今度個別の計画の中にどう落とし込まれて進んでいくのか、市長さんの思いと市民やそれぞれの計画の中に参加される人たちの思い、そのあたりが今後どうなっていくのかは、一市民として楽しみでもあり、ちょっとドキドキしている部分もありというのが正直なところです。そのあたりが今回、特に難しいと感じました。

逆に、子育てのほうの「外出支援」は、市長さんのおっしゃった産前産後というところに焦点を当てたことで、市民意見交換会で、障害を持ったお子さんの送り迎えで市に言っているけれどもなかなか届かないという話があった。私はそこが一点、まだひっかかっています。子どもプランの委員をさせていただいているので、そこで皆さんと議論できたらと思っているところですが、そういうふうに市長さんが、ターゲットをここで言ったことによって、こんな大変な状況を抱えている人もいるということが見えてきたことを市としてちゃんとすくい取っていかなければいけないんじゃないか。回答としては、中学校とかになれば、自分でバスに乗ってということも大事だというのは私も思います。ただ、それを本当になえることができるお子さんなのか、ご家庭なのか。そういったことを含めて考えていくときに、どうしても難しいから市に訴えているというところなのかもしれないことをどう考えていくのかは、今後の課題になると思います。

長くなりましたが、以上です。

○委員長 E委員の冒頭におっしゃった、第一次調整計画で市長からの諮問は全て読み取れるのではないかというモヤモヤ感ですが、私も諮問を受けて、副委員長と事務局と話したら、ほとんどが読み取れるんです。唯一読み取れないのはレモンキャブでした。ただ、レモンキャブは法的な縛りがある。それ以外は全部読み取れるから、あとはそれこそ長期計画の外枠でやるべきではという意見を僕も出したのですが、市の方々の説明を聞いていてわかりました。市長は行政のトップですので、さきの調整計画で読み取れるものの、市長公約もあって市民に選ばれたので、より市長がアクセルを踏みやすいように、より走り抜けやすいように、最後ちょっと地ならしをした程度だと私は考えています。ここら辺もどう考えていくべきか、また、別の機会があれば市の職員の皆さんと一緒に話していければと思います。

E委員は長期計画だけじゃなくて、いろんな委員会をやられているんですね。

○E委員 そんなにいろんなわけでもないのですが、直接関わる場所では子どもプランに入れていただいているので、来月の頭には今回入った「外出支援」と「学校改築」の報

告をいただいて、それについて話し合うという形になっていくのではないかなと思っています。

○委員長 引き続き市政へのご協力、ありがとうございます。

次はF委員、お願いします。

○F委員 皆さん、ありがとうございました。私は市民委員として一番印象深かったのは、市民の皆さんのご意見が多かった「学校改築」と財政面の立て付けのところ、今も気になっています。

教育と福祉の予算を組み立てるうえで、聖域ではないというご意見もありましたけど、例えば吉祥寺の再整備に使う予算と学校再編や福祉についての予算は、基本的な人権に関わる点を公共が担うという意味での注意を払う必要があると思っています。財政の理由や負担の能力が理由で公共サービスの質が低下するということがないようにするためにも、専門性とか科学性を十分に備えた財政の専門家とか各分野の方たちが関わりながら、これからも武蔵野市の質を担保しつつ、持続性があり、公共性を保った福祉政策がなされることを強く希望します。

六長調策定委員会の給食無償化のときに随分議論になった、給食の質の担保を優先として、無償化は少し待ちましょう、そういう質の担保と予算配分ということが十分議論されるためにも、武蔵野市のこの武蔵野市方式がフル活用されることが重要かなと思いました。

二次調の最終の答申案を拝見して、委員長をはじめ、委員の皆様や市役所の皆様にはいろいろご尽力いただいたので、モヤモヤした部分もありましたけれども、今回の基本条例に基づいて行われた過程が随分整理されて、わかりやすく伝わるのではないかと思います。ありがとうございました。

○委員長 いつもの確かつ鋭いご意見をありがとうございます。

それでは副市長に行くのですが、僕の想定以上に時間が早いで、私が最後ですが、その後に、プログラムにはないのですけれども、臨時に齋藤さんと吉清さんにも、振り返りではなくて総括及びご講評ぐらいいただこうと考えておりますので、構えておいてください。

では、まずは副市長としてではなくて、G委員、お願いします。

○G委員 委員長、副委員長をはじめ委員の皆さん、ありがとうございました。もしかすると、齋藤さんと吉清さんの発言を取ってしまうかもしれません。お二人がお願いしたときには、半年なので、もうちょっとチャチャツとつくると言ったかもしれませんが、結果

的には市民意見交換会や議員、教育委員との意見交換、中高生との意見交換など、フルメニューで8回の策定委員会をしていただいたことに感謝申し上げます。

また、オンラインでの会議や資料づくりなど、委員長にもお褒めの言葉をいただきました。市民参加の仕方については、六長の調整計画で我々も大分洗練されてきたところがあると思っておりますが、さらにブラッシュアップできたのではないかと考えています。市役所のDX推進も、私はCIOですので旗を振ってやっついていかないといけないと思っています。この長計が一番進んでいるのですが、ほかの会議も含めてこういう取り組みがどんどん進んでいけばいいなと思っています。ありがとうございました。

また、吉祥寺のまちづくり等、大きな課題も議論いただきましたけれども、私としては、自分の所管の、B委員からも話がありました「就労を含めた高齢者の社会参加の支援」はなかなか難しいと思って議論に参加しておりました。ぜひ短期で、何とか実現に向けて内部でいろんな検討をしなきゃいけないと思っています。またB委員にもアドバイスをいただければと思います。

前回もお話しましたがけれども、副市長が策定委員になっている理由の大きな1つが、実効性の担保だと思っています。そういう意味では、今回も様々な議論を聞かせていただいて、私も意見を言いました。そのような中で、今後2月に議会でこれを行政報告しますけれども、それに基づいた行政運営を来年度しっかりしていきたいと思っています。どうもありがとうございました。

○委員長 それではH委員、お願いします。

○H委員 今回、非常にタイトなスケジュールで、大変お忙しい中、委員長、副委員長をはじめ策定委員の皆様、本当にお疲れさまでございました。

先ほどもありましたが、市長公約では調整計画で読み取れるんじゃないかといった意見がある中、深い議論がなされて、的確にまとめることができたのではないかなと私は思っております。

また、議論の中で、七長に向けた足がかりとなる課題も見つかったと思っています。先ほどもありましたが、この計画はつくって終わりということではなくて、この計画の行く末と七長へ向けて、策定委員の皆様には武蔵野市へのさらなる関心と注目をさせていただければと思います。短い時間でまとめ上げていただきまして、ありがとうございました。

○委員長 それでは、私が最後に振り返りさせていただきますが、私の後に齋藤さん、吉清さんに振りますので、よろしくをお願いします。

第六期長期計画は、私のメモを見てみましたら、2018年7月ですから、6年半が経過しているのです。驚きました。そのときに、初めてこのような会議体に出席して、いろいろ驚くとともに戸惑った点もあります。私は役職上、あまたの会議を、下手したら一日5個ぐらいの会議を仕切ったりもするのですが、このような内容、このような立て付けの会議はなかなかないです。

もう一つ、正直に言ってしまうと、議論している内容がよくわからない福祉とか、いろいろなところがある中で、むしろ勉強させていただいたのが私にとっても非常によくて、ありがたいと思っているところです。

私にとっての大きな変化の1つは、今まで即捨てていた市報むさしのを必ず読むようになったということです。

6年半前の雑感というか振り返りについて書いたことを改めて読み直してみたのですが、簡単な4ページの中に、2回もA Iという言葉が出ております。当時私がA Iと騒いでいても、皆さんは「何それ」という感じでした。唯一副委員長が、そうだよねと言ってくださったぐらい。6年半前に私は、少子高齢社会の到来やA Iの普及、国際化の進展をはじめとする急速な社会変化に対応する新しい構想やビジョンを計画に織り込むという意気込みが希薄であると言及しています。要は、シャクトリムシのように延長線上を進んでいる計画なので、急激な変化、A IとかDXとか少子高齢化、国際化、こういうことに対しては、この長期計画は弱い。そういう大きな変化にも対応できるような第七期長期計画をつくるべきじゃないかと僕は6年半前にコメントしているのです。

もう一つ、どこでA Iが出てきたかということ、数十年後にはデジタル空間上の市役所が主役となり、武蔵野市役所は物理的には「どこにあるの?」と、多くの市民が市役所の所在地を知らない時代が来ます。また、A Iが一部の政策決定や運用を行っているような世界が来るかもしれない。すぐには来ないかもしれないけど、来ても全然おかしくないと思はれております。そういったところも今後しっかり見据えてアクションをしていくには、結局人材の育成が大事だと思っています。

2023年の策定委員会の振り返りでは、DXという言葉が副委員長とまさに二人三脚で、とにかく書き込むぞということをやったおかげで市の職員の方に頑張ってもらって、この委員会はDXの推進がかなり洗練されてきたと思います。ともすると、私がすぐ無理難題を言うから、対応するのに結構時間がかかって苦労された方もいるんじゃないかと思いますが、僕は別にいじめているわけではなくて、当然やるべきことを言っていたつもり

であります。そこはご理解いただけたらと思っております。こういったところが過去の振り返りです。

全体的に見て、私は行政の専門家でもないし、社会学の専門家でもないのですが、武蔵野市の一住民として誇りに思っていることがあります。それは、例えば今年もジャンボリーのリーダーとして小学生と一緒に野山に行くし、第三中学校の開かれた学校づくりの委員として地域の人たちと、中学校はこうあるべきだと議論する。これは非常に質の高いコミュニティで、すごく熱心な方々が一生懸命コミットしているので、私自身もうれしいです。そういった市をつくっていただいたのは市役所の方々、議員、市長の皆様。これはすぐにできるものではありません。第七期に向けて動こうとしている、こういった長い歴史がなきゃ、こんないい市と行政はできません。ここら辺は、市役所の方々及び議員の方々、市長には本当に感謝します。

ただ、多くの市民は、冒頭で申し上げましたように、市報むさしのを読みませんので、もうちょっとアウトリーチをちゃんとするようになったほうがいいのかも事実だと思います。

あと、私のこれからの希望は、緑あふれる、とても美しい、安全・安心な武蔵野市。既に相対的にはそうなっています。ただ、僕はそれをさらに加速していただきたい。D委員も、緑と花のあふれるきれいなまちと。これは意外とコストがかからないです。みんなが歩いていて、ちょっと人込みのところでもハッピーになる、誰もが住みたくなるまち、誰もがちょっと時間潰しに来たくなるようなまちをつくっていただけたらと思います。それは常に申し上げていることで、武蔵野市の方々は今度も非常に献身的にやっていただきましたが、今後もそのような方向で頑張っていたら、私も一市民としてハッピーだし、副委員長が常に言っているシビックプライド、市民として誇りに思うことが多いのをついといろんなところで言えます。そういった意味で、これについていつか皆さんと飲みに行けることを楽しみにしております。どうもありがとうございました。

それでは、事務局からの前に、今までの委員の振り返りに対して質問とかコメントはないですか。それでは委員からはないようですので、齋藤課長と吉清部長から長めのお言葉、ご講評をいただければと思います。

○齋藤企画調整課長 これまでの委員長の仕切りをしっかりと見ていましたので、こういったむちゃ振りを本当は想定しておかなきゃいけなかったのかもしれませんが、僭越ながらご挨拶させていただきたいと思っております。

この二次調整計画策定委員会は8回にも及びました。これ以外にも対面式やオンラインの市民意見交換会、中高生世代との意見交換も合わせると5回。13回にもわたるご参加をいただきまして、本当にありがとうございます。また、正副委員長におかれましては、毎回事前の打ち合わせがございますので、掛ける2回ということで相当な回数になってまいります。的確なご指摘等ありまして、無事にこのような形で会を終えることができるという運びになりました。感謝申し上げます。

委員からのいろんなご感想を聞いておりまして、少し胸が痛む部分もあります。今回5つのテーマに絞ってということではありますが、皆様からおっしゃっていただいたとおり、読もうと思えば読める部分がほとんどだということは我々もわかっておりました。先ほど長期計画条例の3条のご紹介もいただきましたが、市長がかわったところでの変わった感、計画の見直しをやっていこうということでした。委員長からも的確にお話しいただきました、読み取れるという中での記述の明確化、強調すべき取組み、状況の変化等に対応という部分に関しましては、答申にもしっかり落とし込んでおりますので、ぜひこの辺を踏まえてご納得いただきたいところでございます。

あと、今回、ほとんどのところをオンラインでやらせていただきました。委員長にもお褒めいただきありがたいところでございますが、大きなシステムの問題も起きることなく、企画調整課の職員には本当に頑張ってくださいました。ただ、裏方としては相当いろいろと動き回ってやっているところでございますので、私も職員たちには直接感謝を申し上げようと思っているところでございます。

また、この間、委員の皆様には本当にお世話になりました。この書き込みは、実は事務局と振られますが、事務局の裏には各所管の部課長をはじめとした担当者が相当悩みながら、策定委員の皆様といろいろやりとりしながら、文言の修正等を行っておりました。今日も多く職員が参加しておりますが、改めて関わっていただいた職員にも感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

今回、二次調という形で本当によい計画にまとめ上げられたと思っているところでございます。この後、計画決定に向けて、再来週、庁内で再度報告し、計画を決定して、来月には議会に報告します。また、冊子の作成等もでございます。策定委員の皆様にもお届けいたしますので、この形を楽しみにしていただければと思います。

この半年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

○委員長 齋藤さん、ありがとうございます。忘れないうちに。前回の打ち合わせのときにもお伝えしましたが、実を言うと、私は第六期長期計画ぐらいしか知らなくて、ほかの自治体もこんなことをやっているんだろうと思っておりました。ただ、これは全国あまたの自治体の中でも非常に珍しい仕組みと立て付けであって、武蔵野市方式と言われるぐらい誇るべきことを脈々とやっていたというところも第七期の冊子の目立つ部分にしっかりと。今度の調整計画には第一次調整計画と第二次調整計画の立て付けの図は必要ですけど、第七期のときは、これがすごくユニークかつ誇るべきもので、全国の自治体でやっているのはここぐらいとか、ほとんどないといったところも自慢しちゃってください。

○齋藤企画調整課長 申し送りします。

○委員長 最後に、吉清さんに振っていいですか。では、最後にご講評をよろしくお願ひします。

○吉清総合政策部長 皆様、ありがとうございます。ここまで無事たどり着けたことを感謝しております。

あと、今日の最初のところで、答申案が委員長、副委員長預かりとなって、正直ちょっとほっとしたところはあったのですが、委員長には、最後まで緊張感を持続するようにというまさかのご配慮をいただき、ありがとうございます。

皆様おっしゃいましたが、職員としてもこの調整計画ができたタイミングで二次調整計画というのは考えておりませんでしたので、一番苦しんだのは、今は部長になりました当時の真柳課長と齋藤課長とですね。理事者と相談しながら、どういった形で二次調整計画をつくっていくか、委員の皆様はどういった形ならお願いができるか、大変頭を悩ませました。副委員長がおっしゃった、手続きよりも中身が大事というのはそのとおりですけれども、その中身は、市民の皆さん、議員の皆さん、皆様が取り組んでいくための手続で納得感がないと進められない。まず納得できる手続、テーマ設定といったところに最初、一番心を砕きました。

また、二次調整でテーマを絞ってそこにさらにアクセルなりをかけるとなりますと、もともとの計画よりもどうしても具体的なことを書かざるを得なくなると思います。今回はこれでよかったと思いますが、七長に向けては、うちの職員も皆真面目ですので、これだけ手間をかけて議論していくと、どうしてもより細かく具体的なところまで考えてしまう。それを長期計画としてどのくらい書くのがふさわしいのか。その抽象度は、七長をするにあたってもう一回振り返る必要があると考えているところです。

最後に、委員の皆様は、あの2年間議論いただいて、まさか数カ月でこんなお願いをされるなんてとお感じになるだろうと思いつつお願いに行っただけなのですが、逆に短い期間でこれだけのものをつくるには、あの時間を一緒にしていただいた委員でないと、何かわからないうちに終わってしまうと思いましたので、快くお引き受けいただき、これだけ議論していただいて、本当に感謝しております。ありがとうございました。

○委員長 私も、この策定委員を代表して。吉清さん、齋藤さん、武蔵野市の職員の方々、皆さんにはご苦勞されて、献身的にサポートしていただいた。だから僕も頑張れる気になっておりました。これからも市の職員の方々には、DX化、AIの活用といったところ、今までにないパラダイムシフトが起こっているところを認識しつつ、市政にも反映していただけたらと思います。

それでは、議事（3）を終了させていただきます。

（4）その他

○委員長 それでは、（4）「その他」について、事務局からの説明をお願いします。

○齋藤企画調整課長 改めて御礼申し上げます。この第六期長期計画・第二次調整計画策定委員会は今日で全て終了という形になります。この半年間、ありがとうございました。

最後に、ご連絡です。

既にご案内を差し上げているところではございますが、来週21日（火）に、市長に対して答申を行っていただきますので、お集まりいただきます。出席のご連絡をいただいているところではございますけれども、また時間、場所等をご確認のうえ、ご参集いただければと思いますので、お手数をかけますが、どうぞよろしくお願いいたします。

答申を受けました後、先ほども少しお話しさせていただきましたが、答申を最大限尊重した形で第二次調整計画を決定してまいります。1月28日に庁内の推進本部がございしますので、そこで決定という運びになります。また決定した際には改めて委員の皆様にご案内差し上げたいと思います。

私からは以上でございます。

○委員長 ほかに事務局または委員の方々、言い残したこと、伝え忘れたこと、何かありましたら、最後ですので、この際、よろしく申し上げます。

○C委員 先ほどお話しいただいたように、冊子ができたらお送りいただけるということだったのですけれども、中高生で参加いただいた方にも送ってあげるという対応ができれば、自分たちの意見が反映されたというのがわかっていいと思いました。

○委員長 中高生の居場所づくりの意見も市政に反映してあげてください。

○齋藤企画調整課長 まず、中高生の皆様に対しては、計画案の策定前に意見交換がございましたので、計画案のデータはお送り差し上げていることはご報告申し上げます。

また、今C委員からもそのようなご意見をいただきましたので、冊子ができた暁にはこちらから中高生でご参加いただいた方にもお送り差し上げたいと思っているところでございます。ありがとうございます。

○委員長 ほかにありますか。よろしいですか。定刻よりかなり早いですが、締めます。名残惜しいですが。時間オーバーして大変だったときのほうが多いのですが、最後は終わりよければ全てよしということで、よろしいでしょうか。

それでは、第8回策定委員会は以上で終了とし、第六期長期計画・第二次調整計画策定委員会を終了させていただきます。本当にありがとうございました。

以 上